

令和 1 年 11 月 10 日 (日), 横浜水道会館にて「災害対策委員会 第 8 回災害対策研修会」が開催されました。第 8 回目となる今回は「災害時におけるリハビリテーション支援の実際と生活再建に向けた支援の在り方」について検討することを目的として研修会を開催しました。

「災害時における受援体制」や「受援力」がクローズアップされた「平成 28 年熊本地震」から 3 年が経過しました。今年に入ってからも地震に限らない自然災害が発生しています。今後また起こるかもしれない大規模広域災害に備えるべく、災害リハビリテーションや災害理学療法の役割を整備する必要が急務となっています。

今回の研修会は講義と演習の二部構成で会を進行しました。

前半の講義には、去年に引き続き三宮克彦氏を講師に迎え、「熊本地震における本部運営の実際」についてお話し頂きました。三宮氏は熊本地震の際、大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会 (Japan Disaster Rehabilitation Assistance Team ; JRAT) の調整本部長として活動され、避難所での災害時要配慮者を中心としたリハ支援にご尽力されました。その際の災害対策本部運営の流れや実際の活動内容について詳細に伺うことができました。

また後半の演習では「大規模災害リハビリテーション支援チーム本部運営ゲーム (REHUG)」というカードを用いて、ゲーム形式で大規模災害時の本部運営についてグループワークを行いました。開発者である佐藤亮氏を講師に迎えて、REHUG が開発された経緯やその活用方法についてお話し頂きました。REHUG は熊本地震における JRAT 熊本本部活動をベースとしており、ゲーム参加者が活動本部と調整本部、それぞれの本部で起こる様々な出来事にどう対応していくかを疑似体験する実践的なシミュレーションゲームです。参加者のみなさんは、各本部にて活動本部長や調整本部長、ロジスティック (いわゆる後方支援) などの役割に分かれ、支援チームの受け入れや派遣、福祉用具の貸与、記録等に対応する基本的な本部運営について学習しました。時間経過とともに刻々と変化する状況に臨機応変に対応する中で、その大変さも体験して頂けたと思います。

今回は 43 名 (県会員 23 名, 県外会員 13 名, 多職種・学生 7 名) の方々に参加して頂き、災害リハビリテーションに対する需要を感じることができました。一方で、十分にすそ野が広がっていないことも事実です。「支援」「受援」両方の準備を進めるためにも、災害リハビリテーションに関する教育と人材育成は急務となっています。講師の三宮氏が仰っていた「いつも出来ることが、いざという時に出来ること」という言葉を忘れずに、災害対策委員会としても活動していきたいと思えます。

余談にはなりますが、本研修会の前日に REHUG ファシリテーター養成研修を委員会とエリアコーディネーターのメンバーで受講しました。無事、全員終了証を頂くことができ、10 日の研修会でファシリテーターを務めることができました。参加して下さったエリアコーディネーターの皆さまのご協力に、この場をお借りして御礼申し上げます。

今後も各地域にて、より具体的で実践的な災害対策・防災施策を実行していきたいと思えます。より多くのみなさまのご参加をお待ちしております。

